

2025年3月2日（日）第二礼拝「預言者アブラハム」創世記20章1～18節

預言者とは、神様の御心を先に受け取り、そのメッセージを人々に伝え、神様の御心のままにとりなしの祈りをし、人々を祝福し、神様と人々とを仲介する者のことです。今日の本文は、人々のためにとりなし祈ることを怠ってしまったアブラハムの話です。

第一番目、祈らないアブラハムです。アブラハムは、行く先々で祭壇を築いて祈り、彼を通して多くの民族が祝福されるという使命を神様から受けました。祈りの使命です。しかし、ペリシテ人の領地に入った時、アブラハムは祈ることをやめ、代わりに恐れが入り、自分の妻を妹だと言ってしまいました。その地の人たちがアブラハムを殺し、彼の妻を奪うのではないかと恐れたからです。祈りをやめる時、神様の御心に反した行動を取ってしまうのです。

アブラハムが九十九歳の時、神様が彼に現れ、祝福されました。そして、アブラムからアブラハムへと名前が変えられ、子どもを授かる約束を受けました。その後、彼は割礼を施し、包皮（不要な思い）を取り除きました。そして、神様はアブラハムにソドムとゴモラを滅ぼすことを知らされました。アブラハムは、親類ロトのために、懸命に祈り、「十人の正しい人のために、その町は滅ぼさない」というところまで神様に交渉しました。それにも関わらず、ソドムとゴモラは滅ぼされてしまいました。その時、アブラハムはロトの家族の救出を知りませんでした。それらの滅亡を見て、アブラハムは恐れ、失望し、祈らなくなったのです。その後、アブラハムはゲラルに移り、本文のような偽りの発言をしてしまいました。

第二番目、アビメレクを罰する神様です。アブラハムとサラは口裏を合わせて、アビメレクに偽りを言って罪を犯しました。神様は夢の中でアビメレクに現れ、サラを召し入れたことを咎め、アビメレクは死ぬ運命だと言われました。しかし、アビメレクは正しい心と汚れない手でこの事をしたと弁明します。彼の思いを知っておられた神様は、事前に、アビメレクが罪を犯すことのないように守ってくださいました。これはアブラハムの罪でしたが、神様はアブラハムを格別に愛しておられたため（偏愛）、彼の弱さも、罪の性質も知った上で、この一件を寛大に扱ってくださいました。これは、アブラハムがそれまでに、行く先々で祭壇を築いたからです。祭壇を築くこと、つまり、イエス・キリストの十字架を信じることで（恵みと赦しの契約）、アブラハムと同様に、私たちもまた祝福されるのです。

第三番目、使命の回復です。アブラハムの罪から、アビメレク一族は滅ぼされる寸前でした。しかし、神様はむしろ、アビメレクを責め、更に預言者であるアブラハムに祈ってもらうように言われました。アブラハムがアビメレクのために祈った時、アブラハムは祈りの大切さを悟り、自分が受けた使命を回復したのです。神様は、私たちが自らの罪を悟るために、周りの人が厳しい状況に置かれることをも時には許されます。その祈りの後、アビメレクはアブラハムに領地と銀千枚を与えました。アビメレクとその家族は癒され、再び胎が開かれました。その後、サラも祝福され、彼女の胎も開かれました。私たちが他の人を祝福するなら、その人たちは祝福され、同様に私たちもまた祝福されるのです。アーメン！